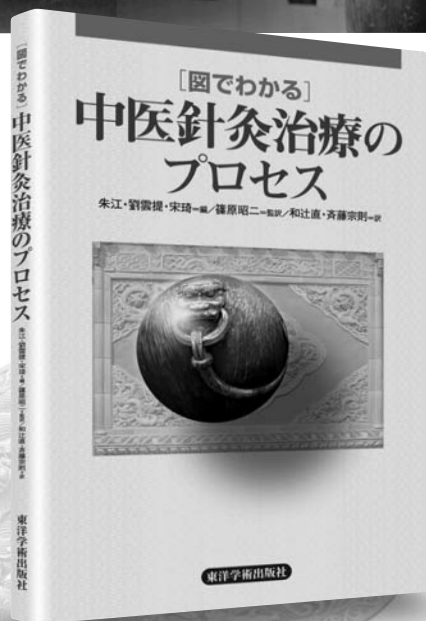


「図表化すれば中医針灸の 治療過程がよくわかる。」

中医学的治療の発想を、日常臨床に生かす。



本書の特色

- ◆ 複雑な弁証論治の過程を図表化することで簡明に表記。
- ◆ 一目で中医学の基本的な考え方が理解できる。
- ◆ 中医学の思考方法を学びたい入門者にとって絶好の書。
- ◆ 監訳者自身の臨床経験にもとづく解説がたいへん参考になる。

一般に中医学書は系統的にまとめられており、最初からきちんと学習するものにとっては非常にわかりやすい。しかし、いざ自分で勉強しようと思っても、どこからどう学んでよいか戸惑う場合が少なくない。そんなとき、本書では症状が最初に記述され、その中医学的病理、弁病または弁証、病証、配穴、手技等が簡明に表記されていた。本書に感動した理由は、これならば今まで中医学を勉強したことはないけれども、日常臨床のなかで中医学的な治療方法を参考・応用する者にとっては、うってつけの書になると思われたからである。

序文(篠原昭二)より

中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』(季刊)ますます面白く、実用的な内容になっています。

● 東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

〒272-0822 千葉県市川市宮久保3-1-5 / TEL.047-371-8337 / E-mail: hanbai@chuui.co.jp / ホームページ ● <http://www.chuui.co.jp/> ● <http://www.chuui.com/>

朱江・劉雲提・宋琦 編 / 篠原昭二 監訳 / 和辻直・斉藤宗則 監訳
B5判 / 並製 / 160頁 / 定価 2,940円(税込)

「図でわかる」 中医針灸治療の プロセス



[図でわかる] 中医針灸治療のプロセス

◆本書に収録する 81 病症

◆目次◆

内科

- 感冒
- 咳嗽
- 哮喘
- 肺癆
- 癩癧
- 胃痛
- 嘔吐
- 吃逆
- 噎膈
- 腹痛
- 泄瀉
- 痢疾
- 便秘
- 脱肛
- 黄疸
- 脇痛
- 鼓脹
- 頭痛
- 眩暈
- 胸痹
- 不眠
- 驚悸
- 鬱証
- 面癱
- 顔面痛
- 中風
- 消渴
- 痿証
- 痹証
- 水腫
- 淋証
- 癰閉

- 遺精
- 陽萎
- 落枕
- 漏肩風
- 捻挫
- 腰痛

外科

- 乳癰
- 乳癖
- 瘰癧
- 腸癰
- 痔瘡
- 疔瘡
- 纏腰火丹
- 湿疹
- 風疹
- 牛皮癬
- 斑禿
- 扁平疣贅
- 脱疽

婦人科

- 希発月経
- 頻発月経
- 月経不順
- 崩漏
- 月経痛
- 無月経
- 更年期障害
- 帯下の異常
- 陰痒
- 陰挺
- 不孕
- 妊娠悪阻
- 産後腹痛

- 産後血暈
- 欠乳小児科

小児科

- 疳積
- 小兒泄瀉
- 小兒遺尿

五官科

- 目赤腫痛
- 麦粒腫
- 迎風流涙
- 近視
- 斜視
- 色覚異常
- 耳鳴・耳聾
- 眼瞼下垂
- 鼻淵
- 鼻衄
- 咽喉腫痛
- 歯痛

2 咳嗽

咳嗽は肺系〔呼吸器〕疾患における主要症状の1つであり、痰を伴わない咳〔から咳〕を「咳」〔有声無痰〕といい、咳の間に痰を喀出すことを「嗽」〔無声有痰〕という。

急性は外感に、慢性は内傷に属する。外感病による咳嗽の治療を誤ると、慢性咳嗽に移行する。内傷病による咳嗽であるところにさらに外邪を感受すると、急性発作が起こる。慢性咳嗽が長期間継続するか、あるいは年老いて身体が衰弱したことにより、臓氣がひどく損なわれると、喘息を併発する。

参考 急・慢性気管支炎、気管支拡張症、上気道感染症

病機

多くは気候の異常あるいは突然の変化により、体表の衛氣の機能が弱くなると、風寒・風熱の邪が虚に乗じて肺や衛氣を侵襲し、肺の宣発*・肅降*機能を損なう。これらの多くは実証に属する。

咳嗽の発作が反復して起こったため、肺氣を傷つけると、肺虚が脾に及び、脾虚から湿を生じる。また、湿が盛んになると痰となって上焦の肺を犯し、肺氣の肅降機能が失調する。あるいは情志*が原因で肝の条達*を損なったため、氣鬱化火*して肺に上逆し肺が灼かれる。

風寒の邪氣が肺を襲い、肺氣の宣発機能が失調した状態

風熱の邪氣が肺を犯し、肺の肅降機能が失調した状態

脾の運化*機能が失調し、湿痰が肺を侵した状態

弁証

外感

風寒

風熱

湿痰

肝火犯肺

内傷

主症

咳嗽に力がある・呼吸が速くのが痒い・痰はうすく白い

咳嗽が激しい・呼吸が粗く声がかすれる・のがが痛い・口渇・痰が切れにくい・痰は黄色く粘る

のどが痒いため咳が出る・咳の音が重く濁る・痰が多く粘って濃い・痰は白か灰色・朝食後にひどくなり繰り返して発作を起こす

咳嗽の急性発作・痰は少なく粘質・気逆のために咳が出る・咳をするとき胸部が痛む

内科



訳者解説

- ①概念のうえでは咳嗽を「咳」と「嗽」に分けているが、臨床では区別せずに「咳嗽」として治療する。
- ②脾氣の失調から湿痰が肺に影響して、咳嗽の生じることがあるが、飲食の不摂生とストレスなどによる気虚から起こることが多い。脾氣を高めるために公孫・足三里を追加してもよい。
- ③怒りやイライラなど激しく感情を害した後でひどい咳嗽・喘息を来すことがある。肝鬱をとることが重要。
- ④呼吸困難を伴うのは、腎陽不足から起こることが多く、腎陽を補うことが必要。詳細は「哮喘」（6頁）を参照。
- ⑤天灸は、皮膚に刺激の強い薬物を塗る。天灸をして局所を充血させる、あるいは発疹させる。なお、薬物としてハンミョウ粉（斑猫粉、カンタリス）や唐辛子、大蒜（んにく）のすりつぶしたものなどを用いる。